いわき民報
發行所 平市田町48 電381・176 いわき民報社 編集兼印刷發行人 田原登

タガス 靴 平市銀座通 電1104

激浪に漁船二艘沈没 十一名行方不明

キティ颱風海上大荒れ

キティ颱風は三十一日夜七時ごろ相模灣に上陸し東京を荒して更に北上、栃木縣から本縣下に入つたが日本海佐渡ガ島附近に副低氣壓が發生したためこのたい風の勢力も急に弱りそのまま消滅の形で日本海へ抜けた、そのため石城地方は陸上よりも海上が大荒し小名濱測候所の觀測によると三十一日夜七時ごろから南東の風が吹出し一日午前二時二十分最大風速南々東二十四・四米に達し午前八時ごろまで十五米の風が吹いた、丁度小名濱灣では三十一日夜八時ごろから約一時間滿潮に差掛つたので折柄の激浪に三米乃至四米の高潮となり波浪は小名濱三千トン岸壁を洗い同地に積出すために貯炭していた粉炭千九百トンのうち約千二百トが流失、損害三百四十万円に達した一方三十一日正午ごろ茨城縣大津町秋山留吉氏所有底曳船佐八丸(二七トン)は繋留中、岸壁に當つて沈没、翌一日朝同港に入港せんとした江名町中の作港吉田義氏(四〇所有權現丸(三三・三トン)も激浪のため沈没、吉田鐵造さんほか十五名の乘組員は海上にほうり出され内五名は他船に救われ十一名は行方不明となつた

遭難者氏名

權現丸の遭難者氏名次の通り(敬稱略)
△村上彦定(二五)△熊谷要(三二)△加藤豐次(由(二〇)△遠藤安男(二二五)△鈴木富之助(四四一)△會田由佐男(一七)△佐藤呉之助(三五)△古俣反榮(二三)坂上新木村兵吉(三〇)△坂井喜次郎(三〇)

死体の捜査を開始

一名の死体と權現丸海岸に揚る

(別項)小名濱港で遭難した權現丸の救護本部は小名濱漁業會に設置、朝早くから活動を開始した、同救護本部の話によると同船は漁業會の一キロ沖合に碇泊中、錨綱が切れ第二の投錨作業中樒波を喰つて轉覆、日本水素工場の裏の海岸にぶち上げられたもので午前十一時現在で行方不明者十一名のうち死体一名が同じ水素裏の海岸にあがつた、なお港内碇泊中の各船に遭難者のうち救助されている者があるかも判らないので同本部では海がなぎ始めた正午ごろから各船に連絡、行方不明者數を確認した上で死体捜査を開始することになつた、權現丸は今年六月進水した底曳船で三十三、三トン、百二十馬力の優秀船で無電裝置もあつた

物すごい波浪

數十戸は避難す

颱風の余波を受けて三十一日から一日にかけて大荒した小名濱港は横濱と鹽釜間の唯一の避難港としての機能を全く失つた形となり修築工事の一刻も早く完成することを海運並に漁業者から痛感された、特に今度の波浪は伊豆大島附近を通つた颱風のため南西から激浪が強くあて防波設備の薄い同港の南西方部からどんどん浪が入り沖の防波堤はさながら海中に沒したも同然となり三千トン埠頭から魚市場にかけて岸壁は怒濤が數十米も高く飛沫を天高くうちあげ縣指導船共盛丸(二六トン)を始め數隻の漁船は危險を冒し沖合へ逆に避難した始末である
同港に避難していた漁船並に機帆船は港内のナゴロに揉み苦茶にされ錨綱が切れたが最後、別項の佐八丸や權現丸の如く沈沒騒ぎを演じている、また埋立地の臨港鐵道南側の住宅數十戸は波浪が激しかつたため避難をした

戦前の狀態に復す

15日から列車のダイヤ改正

奥羽線(福島—米澤)電化完成と炭質向上をもととするダイヤ改正は十五日より實施と決定。三十一日發表された
こんどの改正で平—上野は急行一時間十分。普通四十分短縮。急行ならわずか三時間四十分で上野につくことになり稍戰前の狀態に復した・磐越東線は一往復增發・上野—仙台下り一本增加となつており
また從來は急行・準急だけの二等車がこんどは二一七・二一八・二一九・二二〇・二二一列車にもつくことが決つた

常磐線 上り

	(發平)	(終着驛時間)
(212)	1 26	上野 6 26
(214)	7 56	〃 14 16
(204) 急	9 09	〃 12 50
(216)	9 42	〃 15 46
(218)	11 12	〃 17 16
(220)	15 05	〃 21 06
(222)	18 40	水戸 21 20
(224)	20 55	勿來 21 50
(2208) 準急	23 35	上野 4 36

下り

	(平發)	(終着驛時間)
(2207) 準急	2 30	青森 16 00
(211)	4 00	〃 20 30
(213)	5 25	仙台 10 01
(215)	7 51	〃 12 36
(217)	12 01	〃 16 38
(219)	15 20	〃 19 56
(221)	17 40	〃 22 09
(223)	20 10	富岡 21 37
(203) 急	21 52	青森 8 40

磐越東線 上り

	(平着)	(始發驛時間)
(12)	7 30	郡山 4 25
(42)	8 00	小川郷 7 40
(14)	10 18	郡山 7 00
(16)	14 14	〃 11 00
(18)	18 08	〃 15 05
(20)	20 50	〃 17 40

下り

	(平發)	(終着驛時間)
(13)	5 40	郡山 8 58
(41)	7 10	小川郷 7 33
(15)	8 30	郡山 11 45
(17)	12 20	15 48
(19)	15 20	〃 18 30
(57)	17 42	小野新町 20 05
(21)	19 10	郡山 22 21
(43)	20 20	小川郷 20 53

兩名重傷

三松礦で落盤

三十一日午後三時半ごろ勿來町三松炭鑛本坑右五坑二昇で落盤があり作業中の採炭夫稲森弘(四三)仝青野朝(三一)の兩名はそれぞれ重傷を負つた

田畑の被害六十町歩

平市内で一家半壊、板塀等倒壊

石城地方事務所經濟課調べに依る午前十時までの判明被害狀況は次の通りである
△潮害 夏井村、田地十町歩、高久村、田地十町歩
△冠水 夏井村、田地十五町歩、湯本町田地一町歩、高久村、甘諸畑三町歩
△農作物倒伏 神谷村、水稻 町歩、大野村、水稻五町歩、同大豆三町歩、同粱一町歩
△風害 大野村、水稻十町歩
なお平地區署調べに依る平市內の被害狀況は冠水畑五畝、板塀倒壞四ヵ所、家屋半壞一戸となつている

三名で盗む

住居不定徐島巖(二〇)は李泰山ほか二名と共謀で去る二十三日平市南町常磐交通自動車株式會社第二營業所待合室に置いてあつた、山形縣西白川郡加茂町相馬春吉さん(二七)所有の柳行李二個(毛布他衣類四一點)三万九千二百円相當を盗み內郷町字綴大字七反田迄ハイヤーで運搬して來たことを發覺平區署員に三十一日捕つた

八名靜肅に歸郷

ソ連からの引揚第三船團第五船英彥丸で二十六日舞鶴に入港した引揚者の內平市並びに石城郡關係者八名は三十一日夕七時頃平着の指定列車で歸郷しのふるさとの土を踏んだが『引揚者の秩序保持に關するボツタム政令が』徹底したものか極めて靜肅に行動出迎者の前に祖國再建のための新しい決意を披瀝していた、歸還者氏名次の通り
△小松崎富夫(平市二丁目)△綠川務(同才槌小路)△高杉光治(同古鍛冶町)△石田太郎(下小川村)△矢部寬行(內郷町)△佐藤正德(好間村)△甲冨武雄(勿來町)△秋山忠(湯本町)

電信電話も事故續出

キティ颱風の余波により平電氣通信管理所管內では電話不通事故が簇出一日正午現在で電信回線(電報)は十回線即ち福島(二番線)東京、水戸、勿來、江名、新山、久ノ濱、氣象專用線等が不通となり警察電話回線は七回線で福島—本宮間、下小川、植田、小名濱、浪江(二回線)それに市外電話回線は郡山(二番)小野新町幅島(二、三番)川前、東京(一、二、三番で郡山廻りが殘つている)水戸、高萩、勿來、三阪、江名、富岡、小高、小名濱—江名間小名濱—豐間間等不通となり平管理所管內市內加入電話は四千六百の中三百三十三線が事故不通となつたなお濱通り長距離電線地下ケーブルが內郷町綴地內で十五米幅に浸水、目下復舊工事に大童であるが、これらの事故の復舊見透しは今すぐつかないと同管理所では語つている

旅客上り列車平止り

各列車共約一時間遲れ

青森發上野行き一二二列車平着二十四時二十分は三十一日夜の暴風雨のため一應警戒を必要とするため平止りで打切りにした、なお不通箇所はなく運行に支障を來さなかつたが各客車とも平均一時間遲れた、二日は平常通り運行が出來る模樣である

江名に疑似日本腦炎

江名町江名漁業坂本義信さん方土佐與四三君(一八)は三十日夜八時疑似日本腦炎と決定、隔離したなお日本腦炎は今年になつて初てである

体育大會

野球組合せ

第一回綜合体育大會兼第四回國民体育大會磐城地區豫選、軟式野球の組合せは三十一日次の通り決定した(磐城地區代表は二チームとする)
◇三日(工業グランド)イ東邦クー勿來ク、ロ呉羽化學—大昭炭鑛、ハ東部石炭配炭公團
◇四日、古河炭鑛—イの勝者、ロの勝者—ハの勝者
◇三日(平商グランド)イ、オール內郷—レツドウイングス、ロ、常磐炭鑛—四ツ倉セメント
◇四日オール江名—イの勝者—ロの勝者—磐城太洋

農地委選擧から毆る

入遠野村の高木村議ら檢擧

入遠野村上根本村會議員農高木高次(五〇)は同村下根岸農高木祗增(五四)と共謀で去る八月十七日入遠野村農平子清次郎氏に對し農地委員選擧で自分の思うようにやらないからと同人を突倒して足蹴りにし短靴を以つて顏面を毆打、更に右手で同人の頭部を毆り全治二週間の傷害を與え三十一日植田地區署に

破藏六犯人に徵役一年

草野村九人組破藏犯の最終公判は三十一日地裁平支部に開廷、草野村泉崎元東京警視廳巡査渡邊昭二(二三)同鈴木千代人(二三)同農渡邊商(二三)の三名は窃盜罪のほかに新に銃砲所持禁止令違反で起訴するため分離して行うことになりほか渡邊次男(二〇)渡邊二郎、佐藤茂(三〇)猪狩淸隆(二二)佐藤五郎(二二)渡邊彥以(二五)の六名に對しいづれも懲役一年の判決言渡し

怪音に"防音裝置"

十月中旬迄に完成

數ヵ月前から南風の吹くたびに平市民を驚かした怪音は常磐炭鑛鹿島坑の旋風機の廻轉する音響と判り五月蠅くて夜もおちおち眠れないと問題になつていたが、同炭鑛側では捨て置けず工費七十万円を以つてこれが防音裝置を行うこととなり、來る十日頃着工し十月中旬までに完成することになつた、その間御辛抱願い度いと同炭鑛工作課の円田さんは諒解を求めている

放火の公判延期

双葉郡龍田村上繁岡民鈴木和一(三三)にかゝる放火罪の第二回公判は三十一日地裁平支部に開く筈だつたが都合により三日に延期することになつた

公務妨害に四月の判決

內郷町內水採炭夫湯川助三郎(二二)にかゝる公務執行妨害第一回公判は三十一日地裁平支部に開廷、懲役四ヵ月の判決

衣類盜まる

好間村大字上好間飲食店千葉蔵海さん(四七)方では三十一日朝五時頃外套等衣類六點時價三万一千円相當を盗まれた

鯨岡武弘氏 平市保險課書記、一日午前零時半ごろ自宅で心臟麻痺のため死亡、葬儀は二日午後二時より向鍛田の弘源寺で行う、享年二十九

石炭コークスの御注文は
多少に不拘御用命下さい
平市田町 電話六九八番
福島縣石炭販賣株式會社
平支店長 鶴山菊次郎

女店員さん(增員中)
パツカス 平市三丁目 電702

第4回 豫約受付中
七福定期預金
辨天賞 30万圓
1口千円 空くじなし
皆樣の銀行 七十七銀行

カメラ
材料一式 修理迅速
美鈴
田町驛前通電561

平市五丁目
釜屋商店
電九・九九・九九九

(入院室完備)
產科 婦人科 中田醫院
中田三郎
平市材木町二四(映栄館附近) 電話一〇九七番

讓度
店內裝飾用 戸棚 硝子張ケース
◉御用のお方は至急御來店下さい
木崎屋履物店 平市中央通り

郷土漫筆

高木誠一

八、渡邊最左衛門

徳川時代に至り人口漸く增加して農家二三男の分家を必要とするに至りたると、各藩財政上の發展として頻りに新田の開發を奬勵する處があつた、斯くも農民生活力充足の爲と藩財政の補塡政策とにより農地の擴張、新田の開發が必要とせらるるに至つて、農村至る處に治水と開發に邁進する人物が輩出した。

石城郡大野村大字駒込妙音寺境內に一供養碑が建つてある、題して信寂院唯説義叟居士とある、其陰に渡邊最左衛門庸編長司當村越名主淸風野新田開發依其功令供養也天保十三年寅九月四日と書いてある、この供養碑を建てたのは慶應四年四月十四日である

大野村北境散野の內、大字山小屋秣場字落澤より起り、西して下小川大字柴原に入り字蘇立より來る溝流と合し山小屋秣場字一堀に入り山背をめぐり更に朱鷺巣山の東をめぐり、字淸風野に至りて唐に入る、長さ四十四町三十間幅四尺、其の間樋を架け、楯を埋むる所數ヵ所あり、頗る民力を盡した工事である、往昔延寶四丙辰年內藤義泰鷹狩に來てこの地、高丘なれども平坦なれば田疇の拓くべきを知り其吏に命じて水路を檢べ溝を上小川箭山下より、堀り導いて新墾地に注ぐようにして淸風野と命じた、後になつて溝埋まり堤もくずれ、用をなさす因つて更に柴原字蘇立より溪流を分けて用水としたが乏しかつた、文政の初に及んで全く用水に窮した當時長友村名主渡邊最左エ門本村名主を兼務したがこの慘狀を見るに忍びず能く心を溝池に用い更に山小屋秣場の內字落渡より新溝を堀り、溪流を分ちて柴原蘇立より來る溝流と合す落澤の溪流は山小屋、八基一ヵ村の田に灑ぐ水なれば多く其の流を分つことは難問題であつた、故に相約するに流を引くは必ず秋彼岸の後にしてそれは後の灌漑用なき時を以てしたのである、而して更に堤唐を修築し其の水を貯蓄し以て灌浸に供したのだ初め元錄年間に鈴木利右エ門なるものありこのなとをなさんとしたれども、山小屋八基の拒む所となり、果さなかつたと云う、最左エ門能く其の志を繼ぎ百折撓まず、終る能く淸風野、久原の耕地九町一段十二步に灑ぐことを得た新溝の完成したのは文政二年四月である、村民其恩德に報いんがため碑を建てて供養したのであると云う。

最左衛門は磐城郡玉山村草野氏の男である、出て同郡長友村名主渡邊に養われた、性沈着にして果斷慈悲に富む文政初年名主役を襲ぐ、後磐城郡三十三ヵ村名主頭を勤めた又駒込、下仁井田二ヵ村名主を兼務した、其の勤役中長友及駒込村に溜池を修築し淸風江を開鑿して、灌漑を便にした後人共の惠によること頗る大である、敬神崇佛の念願として地藏堂を造營した、今の國寶地藏堂はそれである後江戸に遊び幕府の重臣佐野備前守に仕えたが間もなく辭して羽前湯殿山本道寺に至り、該寺の納所頭となる時に天保八年の大凶歉があつた、その窮狀を見るに忍びず、越後加賀地方より數百俵の米を買入れ牛數十頭にて運搬したが途中窮民大擧して、之れが運搬を防害したが、米若干を與えて事なきを得た、かくて同地方一般窮民を救つた、後村民其の惠に浴した恩澤を景慕して氏を今不動尊と呼び、銅像を湯殿山登山の途、志津に建立したと云う

成屋に役に、官軍のために破壞せられたが今尙遺地が存じて居ると、遺稿に牛百錄（自敍傳）庄屋勤役日記、長溜築成錄長玉江堰論、地藏堂再建記などあるがいづれも舊藩時代の農政資料として貴重な文獻である

天涯孤獨の兒を養育
眞愛に宛らの親子同様 湯本町楠老師の愛情美談

終戰直前戰災で燒きだされ更に賴りにする兩親に去られ天涯孤獨の孤兒を救い上げて今は自身の親も及ばない細やかな愛情をもつて立派に育てあげて親子となんら變らない和やかな生活をしていると云うせち辛い世の中に美しい花を咲せている美談がある その人は湯本町三函勝行院住職湯本町民生委員楠正隆さん（六二）がそれで終戰直後親を失つた津賀いちちやん（一四）當時十才が父亥之吉さんが亡くなつた際楠さんがいちちやんの天涯孤獨なことを知りその子の將來を考えて湯本町町長及び同所世話人役場係り柏木忠雄さんらと相はかつた結果引取ることに決め養育することになつたがそれから現在迄四年間を經たが楠さんはいちちやんを卑下眼にこの世を考えさせてはならないと親身も及ばぬ愛情を捧げたためいつからともなくいちちやんも楠さんを親と考え今は切つても切れない緣となり世人の羨望の的となつている、なおいちちやんは現在湯本新制中學校一年に在學中で成績も優良だと云つている、今度楠さんは正式に養子緣組をするため三十一日平家事裁判所に緣組申立てを行つた

のど自慢と假装盆踊
飯野八幡神社大祭に開催

秋祭り飯野八幡神社大祭は十四、五の兩日行われるが古式床しい流鏑馬、神子舞と昨年初めて行われた市內への御輿渡御も亦本年も目貫の大通りから南町通りに渡御されるはずである、大祭余興係では十四日午後七時から懸賞附素人のど自慢大會を神樂殿に、又十五日午後七時からは懸賞附假裝盆踊大會も（兩方共雨天順延）開催し一等賞に金一千円を贈呈する計畫を樹てているので例年にも增して遐近からの善男善女の參詣者で賑うものと豫想される

近頃は案外平靜
平刑務所の收容者ら

平事件容疑者達は一時平刑務所の中でインタナショナルの歌聲や怒號で騷然としていたがその後幹部級のもの、及び人員が減少したためか以前と違つて全く平靜を保つている 現在留置されているものは佐藤慶助ほか二十名であるがいづれも容疑者達は平市署不法占據事件當時のあの勢力も今は面影なく靜に親兄弟や親戚同僚達のささやか入差入をなによりも待ちわびている狀況である

疑似疫痢

大浦村細谷阪本往洋ちゃん（三つ）は二十八日發病二十九日午後一時疑似疫痢と決定隔離した

映画案内

二日より 小判鮫大會 第二イワキ

小判鮫（前篇）島育ちのヤクザ者百太郎（長谷川）は囚人の中に無實の罪に苦しむ者をみて江戸へ現われ『小判鮫』と呼ばれる惡德商人を相手に奮斗（後篇）影に躍る人氣女形紅雀（長谷川）に輕業お七（山田）が戀し戀仇お園（長谷川裕子）をかくすが百太郎が救い出し中村座千秋樂の日惡玉善玉が會合し惡玉はすべてほろびる、巨匠を藝術者集團として組織する新演伎座プロ第一回作品

ボクはパン食 毎日健康 平市 平製パン

精工舍の時計 常盤屋時計店 平一（電三三九）

定評有る 大塚の靴と運動具 創業三十餘年 平市田町三田小路 大塚 電七七番

仕出し 江戸前 壽司 世界館前

宅地家屋 賣買物多 龜田屋商會 平市三丁目

生活と文化
春秋庵幹雄

雫石太郎

この程、石川郡小平村に關根林吉氏を訪ね、春秋庵三森幹雄の遺物をみその詳傳をきくことが出來た。關根氏は幹雄の甥方雄の三男に當り、祖に露沾門である大越露光がある氏の系圖を示せば次のやうになるが、一家中すぐれた俳人が輩出している。一鏡も方雄もすぐれた俳人である。

三森幹雄—しげよ—幹雄—準一（現春秋庵立六十八才）まさ子（關根一鏡に嫁ぐ）—方雄—林吉

すぐ（鈴木氏大越露光の裔）みゆ（露光の裔）

幹雄の傳は目下關根氏が執筆中である。幹雄は青年時代だけの在鄕であるから、その傳が詳細に傳わつていないのが殘念である早くその完成を希うものである。氏は勝峰晋風氏指導を受けて俳句の研究に精進する篤學の士である。

幹雄は文政十二年十二月十六日石川郡形見村（今の中谷村）に生れた。名は寬、幼名は菊治（喜久治ともかく）母はすぐ（鈴木氏）母の祖父に俳人大越露光があり、弟に野木右通がある。

二十才まで鄕里に在つて染物業の傍ら農業を業としたが感ずる所あつて、鄕里を去り、牛田銀山に赴き、橫目に奉職したが吏風の墮落を嘆じて職を辭し、宮城縣名取郡玉崎吉田屋大三郞氏の手代となり精勵よくつとめたが、朋輩のねたむ所から意に合はず之を去つた。

安政元年七月二十六才で江戸に上り、せい尾西馬の門を叩き教えを乞うた。幹雄の號はその時授けられたものである安政六年京橋丸太新道に開庵潜窓と號し、はじめて俳人として世に出た。時に三十二才以後不玄庵、香楠居、桐子園春秋庵、天壽老人と稱した。著書に玉川紀行、西遊記、俳諧名變談、俳諧自在法等がある。

俳諧明倫雜誌は明治十三年十二月廿五日に創刊されたものであるが、當時の俳壇を代表する有力なもので、今のホトトギス以上の勢力を占めていたことは史家のみとめる所である。

幹雄は幼より正義感に富んでいた。轉々として職をかえたのはそのためで、明治六年、政府の試驗に合格して敎導職試補を辭命した。この敎導という言葉が意味する『社會大衆の敎化』ということが幹雄の正義感に一致し遂に『俳諧に由る社會淨化』といつたものが指導原理となつた。俳諧明倫雜誌という題號をみてもこの理が察せられよう。

俳諧を單なる風雅の玩弄物とせず、之を普及させることに由つて人心の和、統一を計つた。それには連句に重點を入れた。卽ち多人數のものが一座をまとめてゆく所に和が出來る。かうした所に力を入れその門弟全國に五千人も有して居つた。この連句は子規を宗とする、新波が勃興するに及んで頽びしてしつたが舊派最後の大立物として當時の俳壇余技として盛繪をよくし群龜をこのんで描いた。常にたらいに龜を飼育し、その生態を觀察して居つたという。

この群龜圖はかつて天覽の榮に浴した程であつた。

幹雄は單なる鄕土の俳人のみならず明治を代表する俳人であつた。明治四十三年十月十七日東京深川冬木町の自宅に歿、行年八十二、谷中天王寺に葬る。句碑として次のがある

石川郡小平村加保、磯部神社北前

春なれや名もなき山の朝霞 西燕

今年はと作もうけあう余寒かな 幹雄

勉強をして子にみせる春日かな 一鏡

明治二十六年十一月五日の建立である。

多賀郡關本驛前（日露の役の凱旋記念に常陸の志士西丸帶刀が櫻を植えた時の句である）

これはこれは西丸殿のさくらかな 幹雄

附記

露光は田村郡田母神村の人名は祐泰、醫を業とした。白川郡上松川村に居を移した俳諧をぬんで露沾の門に入り露沾逝後地らの丁風を維持した。藩井岈又は蘇嶽と稱し、天明四年七月九日歿した。年八十一

ちる時にちるも哀ぞ露の玉

鞍置は馬もよろこぶ櫻かな

てらてらと日はさしながら秋の風

千里は丁度松魚の夜明かな

衣料品
呉服と洋品有名化粧品と小間物
雜貨 レコード樂譜樂器と
附屬類雜誌
平市四丁目 電268番
山吉商店

幸運賞 30万圓 特賞 10萬円 發約中
常陽の幸運定期
一口 1000円無税無記名空くじなし お申込はお早く！

眼鏡專門 各眼科醫指定
玉屋 平二丁目 電話910

パンと洋菓子
ベーカリー 東京堂 才槌小路（電二〇八）

開業三十周年記念
賣店開設
和洋家具 御婚禮調度品
事務用家具 商用家具
建築用建具 農業用唐箕
◎優秀なる設計 良材使用
◎優美なる塗装 良心的工作
木工品なら一切御相談下さい
湯本町溫泉神社下
小井戸家具販賣店
笠井町
小井戸木工場
電話湯本13番

內科 小兒科 外科
金成醫院
院長 諸橋一郎
平市紺屋町電八二六

斯界最高有名品
最新式前後縫ミシン
家庭用工業用 優秀ミシン
現金又は手頃な月掛法方
店內商品陳列ご御一覧
ミシン
石川ミシン商會 平市二丁目

放射線科 內科
谷口醫院 ヤグチ
平市一丁目櫓電一〇六五番

金融と買入
平市大町通り
鈴木質舖

ウエルボールペン
ウエル萬年筆
文房具 書籍雜誌 度量衡
播摺小路 魁文堂 電三二三

設計と建築
平建設興業株式會社
仲町六（電一〇六六番）
社長 金古政通
專務 片寄傳右衛門

製函 魚函
木箱仕組板
◎大量註文ニ應ズ
福島縣木箱工業組合平出張所
平市才槌小路踏切際 電話三六一番

趣味と實益
カナリヤ エ
チャボ カスミ網
諸鳥全般 美術籠 サ
附屬品一式類
◇…飼鳥の御相談を喜んで致します
平市公會堂前
橋本小鳥店

最高能度を誇る
新星の醫薬品
局方ブドウ糖
局方サルチル酸ソーダ
ザルソブロカ糖（注）
ブドウ糖（注）
其の他各種
新星藥品工業株式會社
平市大町電353・668